

自己評価報告書(最終報告)

報告者

臨床心理士養成コース
／吉井 健治

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

児童生徒の心理を適切に理解し、効果的な心理的支援を行うことができる教育実践力の習得を目指して、「生徒指導論」及び「カウンセリング論」の授業実践に取り組んできた。今後の授業計画においては、これまで以上に、生徒指導上の問題行動を起こした事例およびカウンセリングの事例を提示して(プライバシーに配慮しながら)、学校現場の実践と関連させていきたい。

2. 点検・評価

「生徒指導論」及び「カウンセリング論」の授業において、不登校、いじめ、反社会的行動の具体的な事例を提示し、このような児童生徒の心理・行動に関する理解と対応について詳しく説明した。こうした授業を通して学生の教育実践力を高めることができた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①学生相談に関して、他大学の状況を参考にしながら、システム等の検討を行い、さらなる充実を図る。
- ②大学院生の就職及び資格試験における支援体制について検討する。

2. 点検・評価

- ①日本学生相談学会の研究雑誌を読んで学生相談のシステムや工夫について検討することができた。
- ②大学院生の就職については、特にスクールカウンセラーと教育委員会関係において支援することができた。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ①研究助成を受けている「スクールカウンセラーの評価システムの構築」の研究を行う。
- ②臨床心理士養成のための実習のあり方について検討する。

2. 点検・評価

- ①スクールカウンセラーの評価に関する調査を実施し、結果の分析を行った。
- ②スクールカウンセラー実習について、他大学の教員と協議したり、実習校を訪問し校長と協議することができた。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①委員会の仕事に積極的にに関わり、大学運営に貢献する。
- ②大学院の定員確保につながる広報活動を行う。

2. 点検・評価

- ①委員会の仕事に積極的にに関わり、大学運営に貢献することができた。
- ②大学院の定員確保のために、大学訪問を行い、説明会を開催した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ① スクールカウンセラー活用事業において、徳島県教育委員会と積極的な連携を図る。
- ② 不登校の訪問臨床において、徳島県立総合教育センター、徳島市教育研究所と積極的な連携を図る。

2. 点検・評価

- ① スクールカウンセラー活用事業をはじめ様々な側面で、徳島県教育委員会と連携を行った。
- ② 不登校の訪問臨床において、徳島県立総合教育センター、徳島市教育研究所と積極的な連携を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

県や各市の教育委員会と積極的に連携して地域貢献を行うことができた。